

第132号

まちのくすりやさん

今回のおはなし

「帯状疱疹」

「タバコ 余命」



# 帯状疱疹

## 加齢・ストレスで発症

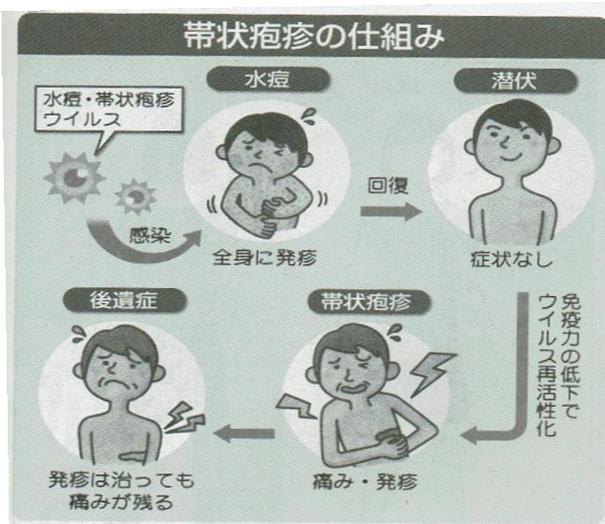
皮膚の表面に赤い発疹や小さな水ぶくれが带状に現れる帯状疱疹（たいじょうほうしん）。

加齢や疲労などで免疫力が低下すると起こりやすいです。特に高齢者は、後遺症の「帯状疱疹後神経痛」によって、激しい痛みが続く場合もあります。早期の治療や予防が大切です。

帯状疱疹は、年間60万人がかかり、80歳までに3人に1人が発症すると言われています。原因は、大半の人が幼児期にかかる水痘（みずぼうそう）と同じ「水痘・帯状疱疹ウイルス」。

水痘が治った後もウイルスは消滅することなく、体内の神経が集まる神経節に潜伏しています。普段は抑え込まれているウイルスが、加齢やストレスで免疫機能が衰えると再活性化し、神経や皮膚に炎症を引き起こします。水痘にかかった人なら誰にでも起こり得ます。

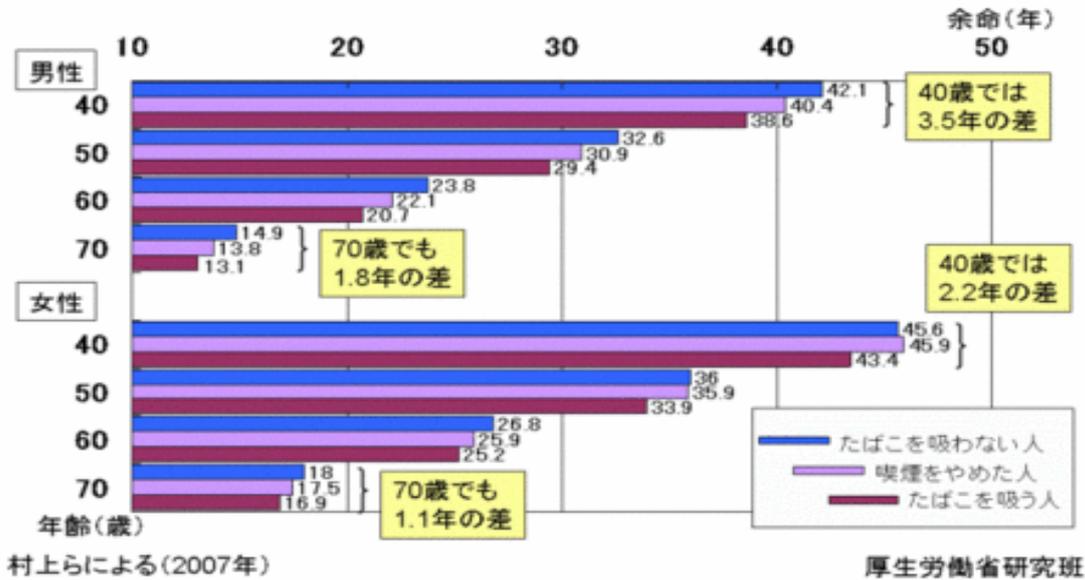
症状は、肩や背中、顔などの左右いずれかに出ます。目の周囲だと結膜炎や角膜炎、耳の周囲だと顔面神経まひや耳鳴りが生じることもあります。治療には、抗ウイルス剤が有効です。2～3日後から効果が現れ、ウイルスの増殖を抑えます。高齢者になるほど強い痛みが出やすいので、非ステロイド性の鎮痛薬などを使って緩和します。表皮の水ぶくれは2～3週間でかさぶたになり、回復に向かいます。



通常、症状の改善に伴って痛みは治るものの、50歳以上や症状の重い患者は、注意して下さい。ウイルスによって、神経が破壊され、後遺症の「帯状疱疹後神経痛」になるケースがあります。損傷した神経は、治りにくく、皮膚の炎症が治まっても数カ月から数年にわたり激しい痛みが続きます。後遺症の根本的な治療法はなく、痛みを取り除く専門外来「ペインクリニック」での治療となります。神経ブロック注射や抗けいれん薬、麻薬性鎮痛剤といった痛みを和らげる薬を、治療時期や患者の状態に応じて投与します。

# ガ・タバコ

## 40歳からの余命：喫煙状況別



喫煙により引き起こされる様々な健康影響により、喫煙者は、余命が短くなると言われてしています。

熱中症にご注意下さい！！

本格的に夏が始まる前でも、暑さに体が慣れないうちに急に気温が上がると、体温がより上昇して熱中症のリスクが高まるそうです。この時期から、水分をしっかり取るようにしましょう！



★かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師をもちましょう。

### (一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内  
 Tel 047-355-6812 (月～金：10～15時)  
 Fax 047-355-6810  
 メールアドレス [toiawase@urayaku.jp](mailto:toiawase@urayaku.jp)  
 ホームページ <http://www.urayaku.jp/>